

いじめ予防へ 思い出を語る

下山小で授業 児童ら確認

京丹波

京丹波町下山の下山小で9日、子ども自身を健康にするための「予防教育」の授業が開かれた。徳島県の鳴門教育大予防教育科学センター職員が3、4年の児童20人と、日頃の生活の中から楽しかったことを探した。

同センターでは2010年から、自信を持つために「転んだ時に友だち

たり気持ちを理解したりしていじめや暴力を防ぐ予防教育を行っている。同小は京都府教育委員会の事業の一環で、予防教育を実施した。

授業ではセンター職員がら班に分かれた児童に、今までの生活で楽しかったことを問いかけた。児童は班ごと

に「転んだ時に友だちが声をかけてくれた」「友だちと遊んだこと」などの体験と理由を発表。一通り答え終わると共感した内容や新しく思い出したできごと

（井上広俊）



楽しかったことの発表を聞いて拍手する児童ら（京丹波町下山・下山小）